

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		チャレンジ・キッズ宝塚				公表日	2025年12月15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		・療育内容によって座席の配置や活用方法を分けている。 ・1室の利用者を4人までとし、必要があればパーテーションを活用している。	継続	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	1	・日々の利用状況に応じて適切に配置している。	祝日等の職員配置に苦慮している	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1	・児童が座る場所を図示している ・段差がある所には分かりやすい目印を設け、バリアに対応する力を養っている	引き続き、空間を上手く活用していく	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	1	・定期的に清掃・消毒を行っている ・児童自身も使用したものを消毒するなどの衛生管理を教えている。	床の構造から、寝転んで体を動かすような活動はしにくい	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		・パーテーションを活用して個別のスペースを確保できるよう配慮している ・部屋数3、空間を4つに分けており、児童の状態に応じて使用することができる	継続	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	1	3	・情報共有システムを活用しているが、一方通行の伝達になってしまっている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	・年1回機会を設けている	継続	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	2	・情報共有システムを活用しているが、一方通行の伝達になってしまっている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3	・同法人内の別事業所の職員に評価を依頼しているが、多忙のため実施できないことが多い	機会を設けていく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	1	職員の研修時間の確保のため、オンライン研修を導入するなどの工夫をしている	継続	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		支援プログラムが視覚的にわかりやすくなっているので、本人、保護者が困っている点にダイレクトにアプローチできる	継続	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		日ごろから丁寧な観察、記録をしているので、抽象的なイメージではなく、具体的な例を挙げて支援計画に盛り込むことができている	継続	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		計画作成時には、すべての職員が閲覧できるようしている	継続	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		標準的なツールに加え、応用行動分析学の視点を入れてアセスメントしている	継続	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		標準的なツールに加え、応用行動分析学の視点を入れてアセスメントしている	継続	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		・必要な項目を設定し、5領域にアプローチしている ・具体的な支援策を記入している	継続	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2	2	・意見交換は多いが、児童及び保護者のニーズを優先してプログラム立案をしている。	継続	

援 の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		その時のニーズに合わせて柔軟に対応しており、常にトライアンドエラーを繰り返している	利用者や職員体制によって固定されがちになる時があるので、更に柔軟に対応していく
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		本人や保護者の意見や要望を聞きながら、得意を伸ばし苦手にチャレンジできるよう、集団・個別活動を組み合わせて支援している	継続
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	2	対面式で行っていたが、サービス提供記録や社内の情報共有ファイルを作成し、効率的に情報共有を行っているが、一方通行の伝達になってしまっていることが多い。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	2		
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		ひとり1台のPC・タブレット・スマホ等を整備し、記録を取りやすくしている	継続
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		年間スケジュールに、各児童に対して3か月ごとのモニタリング（見直し）業務を入れている	継続
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4		基本活動を組み合わせ、適切に提供している	継続
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3	1	クローズドエスチューションだけでなく、オープンエスチューションも交えて本人の意思を確認するようしている	継続
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		できる限り児童発達支援管理責任者が参加するようにしており、参加した職員が内容を各職員と共有する等、理解を深める体制を整えている	継続
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		保護者からの要望があれば、できる限り相手先に合わせて日程調整をおこない、連携につなげている	継続
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		要望がある際の体制は整っている。 中高生は自立に向けて、利用者本人が職員に予定を伝える練習も行っている。	継続
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		要望があれば、行う準備がある	事業所からの発信を増やしていく
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		アプリを活用して、写真入りでお伝えしている	継続
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4		オンラインツールを使い、参加しやすい研修や、事業所だよりの発行などで情報提供を行っている	継続
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		4	現状の体制での実施は不可の状況	
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	3	多忙のため参加できないことが多い	
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		相談体制を整備している	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	要望があれば、行う準備がある	
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		直接、間接的であれ、必ず実施している	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			継続
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		必要に応じて連携し、情報提供を行ってい	継続

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		る。	●●●●●
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	2	機会があれば開催しているが、現状の体制での実施は難しい	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		誤解が無いよう、ひとつひとつ確認しながら説明を行っている	継続
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		児童や保護者と定期的にコミュニケーションの場を設け、本人や家族の意向にそえるよう工夫している	継続
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		必ず対面で説明を行い、支援計画に同意を得るようにしている	継続
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		児童や保護者と定期的にコミュニケーションの場を設け、必要に応じて面談を実施している	継続
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3	「保護者会」という名前は使っていない。機会を設けたいが、現状の体制での実施は難しい	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		迅速に対応しており、再発防止策も伝えている	継続
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		事業所内通信を毎月発行している	継続
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		個人情報が漏洩しないよう、適切に管理している	継続
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		電話など口頭での意思の疎通だけでなく、メールやアプリを活用している	継続
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		要望があれば体制は整っているが、個人情報保護の観点から難しいことが多い	事業所からの発信を増やしていく
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		児童や保護者と定期的にコミュニケーションの場を設けており、面談も行っている	継続
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		マニュアルを策定し、年2回、定期的に訓練を行っている	家族への周知にも力を入れていく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		計画を策定し、定期的に研修、訓練を行っている	継続
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		契約時・面談時に保護者と情報共有している 毎年フェイスシート(利用者情報)の更新を行っている	継続